2005 年 11 月 9 日

各 位

～1970 年代のＯＬと現代の独身女性を比較調査～

ベルメゾン生活スタイル研究所、「母娘世代レポート」を発表

株式会社千趣会（本社 大阪市、代表取締役社長 行待 裕弘）は、本日 11 月 9 日をもちまして創業 50 周年を迎えました。この記念事業の一環として昨年 5 月に設立したベルメゾン生活スタイル研究所では、1970 年代に OL だった女性と、その娘世代にあたる現在 30 歳前後の独身女性の意識を比較調査し、女性たちの生き方や価値観の変化を探った『母娘世代レポート』を本日、ホームページ(http://www.belle-style.com)にて発表いたしました。

このレポートは、26 項目の質問結果を「結婚」「資質・嗜好」「親子関係」のテーマに分けて、母娘世代間の差異を分析。高度経済成長末期からバブル崩壊を経て現在に至るまでの約 30 年間に、「結婚がゴール」「内助の功」といった依存的な生活から、１人の人間として自由で自立した生活を志すようになった日本の女性の変化がうかがえます。

【結果概要】

結婚＝共同生活のパートナー選び

◆結婚したら「一生添い遂げるべき」　母親世代 89.4%　→現在 49.8%

◆夫婦関係の理想は？

「夫唱婦随・内助の功型」　母親世代 28.1%　→現在 9.8%

「パートナーシップ型」　母親世代 26.0%　→現在 51.2%

理想の夫婦像イメージでは「一生添い遂げる」が 90%から現在では約 50%にまで激減。母親世代にとって結婚は生涯の伴侶を求めるひとつの「ゴール」であったのに対し、娘世代はあくまでも「よりよい生活のためのパートナー選び」という意識が強くなってきているようです。

世代と共に変わった「幸せ」の意識

◆日本の若者は幸せだと思いますか？

「とても幸せ」　母親世代 11.5%　→現在 17.2%

「幸せな方である」　母親世代 69.6%　→現在 45.6%

「あまり幸せではない」　母親世代 17.0%　→現在 31.9%

学生運動など、若者の反乱の時代の名残を残していた 1971 年では、80%の人が幸せ（「とても幸せ」「幸せな方である」を合算）としていたのに対し、現在は 63%まで低下。「あまり幸せではないと思う」が 14.9%上昇しました。経済や暮らし向きにおいて「右肩上がり」が予見できた 70 年代に比べ、自身を取り巻く環境や状況が、これからどう変化していくのか見えにくい現在では、「幸せ」と言い切れる自信が揺らいでいるのかもしれません。

親子の「愛」より、母娘の「友情」

◆あなたにとって母とはどんな存在？

「愛である」　　母親世代 23.5%　→現在 9.7%

母親の存在について、70 年代には「保護者」（27.6%）に次いで多かった「愛」「ふるさと」といった回答は激減した反面、「その他」項目のなかで「友人」「仲間」といった回答が多くを占めました。近年話題の「友達母娘」を想起させる結果と言えそうです。

【調査方法】

ベルメゾン生活スタイル研究所のスタイルモニターバンクに登録している、全国の独身女性（25～31 歳・有職）で有効回答者数は 285 人。2005 年 9 月にインターネットで調査を実施いたしました。比較するデータには、1971 年（一部 1983 年）に年間を通じて行われていた千趣会の OL 調査（東京、大阪の OL 約 400 人対象）を利用いたしました。

この他の調査結果についてはベルメゾン生活スタイル研究所のホームページ(http://www.belle-style.com)をご覧ください。

◎本件に関する問い合わせ先
ベルメゾン生活スタイル研究所 坂本典子（mailto:n-sakamoto@senshukai.co.jp）
〒530-0035　大阪市北区同心 1-6-23　　ＴＥＬ：06-6881-3043　ＦＡＸ：06-6352-9286